

「信仰による義」

ローマの信徒への手紙

10:1 兄弟たち、わたしは彼らが救われることを心から願い、彼らのために神に祈っています。

10:2 わたしは彼らが熱心に神に仕えていることを証ししますが、この熱心さは、正しい認識に基づくものではありません。

10:3 なぜなら、神の義を知らず、自分の義を求めようとして、神の義に従わなかったからです。

10:4 キリストは律法の目標であります、信じる者すべてに義をもたらすために。

10:5 モーセは、律法による義について、「掟を守る人は掟によって生きる」と記しています。

10:6 しかし、信仰による義については、こう述べられています。「心の中で『だれが天に上るか』と言ってはならない。」これは、キリストを引き降ろすことにほかなりません。

10:7 また、「『だれが底なしの淵に下るか』と言ってもならない。」これは、キリストを死者の中から引き上げることになります。

10:8 では、何とされているのだろうか。「御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。

10:9 口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。

10:10 実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。

10:11 聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。

10:12 ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。

10:13 「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

パウロは9章で書いたのと同じように同胞に対する心の痛みを表現しています。

それは深刻であり、パウロはその内容についても明言しています。

「彼らは熱心ではあるけれど、正しい認識に基づいていない」彼らは熱心だけれど、本当に大切なことを理解していないというのです。

そして今まで語ってきたのと同じ結論を語ります。

10:3 なぜなら、神の義を知らず、自分の義を求めようとして、神の義に従わなかったからです。

自力で義とされようとしているユダヤ人は、神が提供してくれた義の内容もその方法も信用していなかったのです。

彼らは断固として「律法を守り抜くことでこそ救いを得る」という方向性を固辞していたのです。

それ以外のものを全て排除していたのです。

そこでパウロは「律法とキリストの関係」に触れていきます。

1) キリスト：律法の目標、律法の終わり

それぞれの訳によってニュアンスが違います。

新共同訳聖書は「10:4 キリストは律法の目標であります、信じる者すべてに義をもたらすために。」

となっていますが、

新改訳は

「10:4 キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。」

口語訳では

「10:4 キリストは、すべて信じる者に義を得させるために、律法の終りとなられたのである。」

本田哲郎訳ですと

「律法の到達点はキリストであり、この方が信頼して歩みを起こす者全てに解放をもたらすのです。」

いずれにしてもはっきりしているのは「キリストは律法を完成させる生き方をした存在」「キリストは律法の要求に全て応える生き方をすることで信頼する私たちの全ての不足分を補うことができる」ということです。

私たちのそれぞれの不足分を補い、すべての弁済を済ませ、しかも、最初から最後まで律法に基づいた生き方に徹した存在なのです。

ですから、私たちがどうあるとしても、このキリストに信頼するなら、律法に関する出来事についてはすべて処理済みとして神は私たちを愛し、赦してくださいます。

2) 人間は律法を完遂することはできない。

私たちは、どんなに頑張ってもキリストが成し遂げてくださった救いの方法を取り替えることはできません。

また、律法が要求する生き方に 100%応えることは不可能です。

だからこそ「天に昇って神と交渉する」とか「地に降って裁きについて処理してくる」などということとは人間には不可能であり、すでにそれを実行してくださったイエス様のみわざを否定し、冒瀆するような考え方なのだと言われているのです。

3) すぐ近くにある福音

福音は決して難しいものでも、遠くにあるものでもないと言われています。特にユダヤ人にとってはもう知っているのも不思議はないほど身近なところにあるということです。

パウロが一気に語っている結論はこれです。

10:8 では、何とされているのだろうか。「御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。

10:9 口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。

10:10 実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。

10:11 聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。

10:12 ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。

10:13 「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

イエス様への信頼を告白すること。

告白とは「心にある事柄をそのまま」口に出し、表に出すことです。

イエス様、あなたは救い主です。よろしくお祈りします。

まさに、この心、この姿勢が大事なのです。

+++++

礼拝映像は

<https://youtu.be/v-sCCMATVSk>

です。